

地球環境の未来と共に

シップヘルスケアグループが事業活動を継続していくうえで、気候変動をはじめとする環境問題への対応は経営における重要な課題であると捉えています。私たちは事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組むと同時に、環境に配慮したサービスを展開することで、地球環境の未来と共に持続可能な社会の実現を目指してまいります。

注力アクションテーマ

廃棄物の削減

循環型モデルの推進

フードロスの削減

廃棄物の削減

「生命を守る人の環境づくり」のミッションの下、持続可能な医療提供体制を実現するため、メディカルサプライ事業では医療機関における医療材料管理を行うSPDシステムを提供しています。SPDシステムによる適正在庫管理・供給により、医療現場や物流の効率化に貢献すると同時に、医療廃棄物の削減にも貢献しています。

SPDによる適正な材料管理

医療材料管理・供給のIT化により 医療廃棄物削減へ貢献

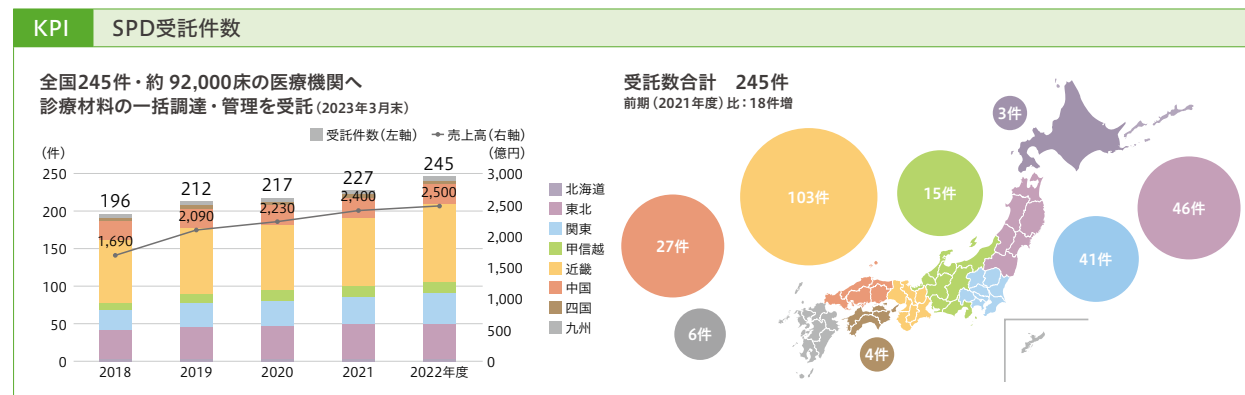
医療機関で使用される大量の医療材料はそれぞれ使用頻度や使用期限が異なり、厳正な管理を必要とします。また、医療機関は常に最良の医療を提供するために余裕を持った在庫を確保することが多く、過剰在庫から出た使用期限切れの医療材料等の廃棄物は、病院経営を圧迫する課題であるとともに、環境にも負荷がかかります。

当社グループが展開するSPDシステムは、ITを活用した管理によって、適正在庫管理・供給を実現し、廃棄の抑制にも寄与します。さらに、業界で初めてRFIDを活用したSPDを展開し、医療材料に貼付したタグで「いつ・どこで・誰が・誰に・何を・どの治療に使ったのか」のデータを紐づけることで、医療材料のトレーサビリティやサプライチェーンマネジメント(SCM)*の最適化も実現します。適時適切かつ効率的な医療材料供給を通して、環境にも配慮した医療提供体制の構築に貢献しています。

医療従事者の負担軽減・ 安定的な医療提供に貢献

医療従事者の皆様にとって、医療材料管理をはじめとした医療行為以外の多岐にわたる業務は、負担が大きいものです。慢性的な人手不足に対して具体的な改善策が求められる中、良質で持続可能な医療を提供するためには業務効率化が喫緊の課題です。当社グループのSPDサービスでは、医療従事者の皆様に代わりITを駆使した高付加価値な医療材料管理サービスを提供。正確かつ迅速な在庫管理を通じて医療現場を支援し、医療に集中できる環境を作り出しています。また、当社グループの医療材料保管庫は災害時の医療材料供給拠点としても機能し、医療のBCPにも貢献しています。

※SCM:自社内あるいは取引先との間で受発注や在庫、販売、物流などの情報を共有し、原材料や部材、製品の流通全体の最適化を図る管理手法。



循環型モデルの推進

ヘルスケアのトータルプロデュース企業としてさまざまな事業を展開する中、私たちは多くの資源を利用しています。省エネルギーや廃棄物削減を通じてGHG排出量を低減させるとともに、梱包材料をはじめとする資源の再利用や物流プロセスの見直しによって、循環型モデルを構築していきます。

段ボールリサイクルの推進

メディカルサプライ事業では、日々、医療機関へ医療材料をお届けしており、その仕入・販売工程においては大量の廃棄段ボールが発生します。グループの主要なメディカルサプライ関連事業会社から生じる使用済段ボールだけでも1日あたり約6,000ケースにのぼり、その廃棄には多くのエネルギーリソースが必要となります。

そこで2022年より、一部のメディカルサプライ関連事業会社から廃棄される段ボールを紙袋に再生し、当社グループの営業担当者が用いる紙袋として活用する新たな取り組みを開始しました。これにより、資源循環を促すとともに、従来のポリプロピレン加工を施した紙袋よりも廃棄時のGHG排出量を大幅に削減することが可能になります。今後は、このモデルの当社グループ全体への拡大を目指し、環境負荷の低減に貢献する取り組みに注力していきます。

KPI	段ボールリサイクル(トライアル)
40kgの副資材を引き取り ⇒紙袋500枚(60g/枚=30kg)へ再利用	再生率75%
[今後の計画]	
・11,000kg/月の副資材を引き取り⇒再生8,000kg(再生率72%) ※小西医療器株式会社から取り組みをスタートし、今後拡大を検討	



メディカルサプライ事業から出る廃棄段ボール



再生紙でつくった紙袋

VOICE



**医療材料物流全体で
環境負荷低減・
コスト削減を進め、
好循環を生み出すために**

メディカルサプライ事業部門
副部門長 島田 正司

SPD事業という医療物流全般を担う業務においては、箱詰めされた医療材料の梱包を解き、医療現場で1日に消費される量を目安にパック化して(バラの状態にして)供給します。そのため、倉庫では段ボール・化粧箱・袋などの副資材が大量のゴミとして発生します。

卸業者は副資材込みの価格で医療材料を購入し、同様に医療機関も、副資材込みの価格で単価契約等を選び、製品納入後に残る副資材は、ゴミ回収業者にお金を払って引き取ってもらっているのが現状です。

今の荷姿を検討した時代の考え方と、現在の物流網や院内物流のあり方にミスマッチが生じている可能性があります。一部、過剰包装に陥っている側面もあるかもしれませんが、国際輸送の梱包基準等も踏まえると、段ボールをダブルからシングルカートンにするといった抜本的な改革は難しいかもしれませんが、内袋に使用している梱包用ビニールも含めて厚みを薄くするなど、梱包素材の削減や仕様改善への工夫等の議論を活性化させていくべきと考えています。

そこで当社グループでは、まずは自分たちにできることから着手するべく、段ボールの再利用に挑戦しています。これからも、あらゆるステークホルダーや地球環境にとって好循環が生まれる仕組みを検討していきます。

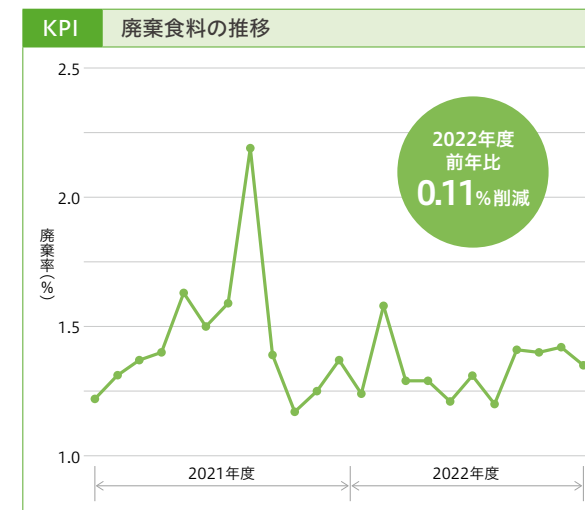
フードロスの削減

高まり続ける食料需要や価格の高騰は、人々の健康管理に従事する私たちにとっても重要な課題です。当社グループのライフケア事業では、医療機関や介護施設等への給食サービスにおいてフードロスの削減に取り組んでいます。

産業用給食の適量生産

当社グループの給食サービスにおける1日あたりの提供食数はグループ全体で約7万食にわたります(2023年3月時点)。多くの廃棄食料が発生しうる産業給食サービスを展開する企業として、フードロスを削減し、資源を有効活用することは、重要な社会的責任であると認識しています。

そこで、当社グループのライフケア関連事業会社では、食料の調達から加工・調理、施設での配膳時などあらゆる工程において適量生産に配慮し、サプライチェーン全体で廃棄削減に向けた工夫を重ねています。また、一部の施設では、廃棄食料を計量し、フードロス削減に向けた定量目標を掲げる取り組みを推進しており、少しずつではありますが廃棄率平均値前年比0.11%削減(2022年度実績)を実現することができました。



※給食事業グループ会社 株式会社中央 坂出工場 売上高に占める廃棄額の割合